科目名	授業形態	単位数	担当教員名
教育方法論	講義	2	齋藤　尚志

【授業のテーマ及び到達目標】

これからの社会を生きていく子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な、教育の方法や技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識や技能を身につける。

①教育方法の基礎的な理論と実践を理解している。

②子どもたちに必要な資質や能力を育成するための教育方法のあり方＝「主体的・対話的で深い学び」を理解している。

③教育の目的に適した教育技術を理解している。

④情報機器および教材の活用に関する基本的な知識や技能を理解している。

【授業の概要】

まずは教育方法・教育技術の前提としての「学習（学び）」に関する基本的な事項について学ぶ。次に授業の構成要素や教育方法・技術に関する基礎的事項、教育評価の意義や機能について理解を深める。最後にこれからの教育における新しい方法＝情報機器の活用等について基礎的な知識や技能を身につける。また授業はレジュメを用いながら、各回のテーマを中心に講義を行うとともに、必要に応じて映像を用いる。なお、講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じ変更することがある。

【全体の授業計画・内容】

1. オリエンテーション
2. 学習とはなにか①　－代表的な学習の考え方－
3. 学習とはなにか②　－学習理論に基づく学習方法－
4. 学習とはなにか③　－学習における他者・集団－
5. 学力とはなにか①　－学力の考え方－
6. 学力とはなにか②　－学力と人間性－
7. 授業の創造①　－授業の構成要素－
8. 授業の創造②　－教育方法・技術に関する基礎・基本的な事項－
9. 授業の創造③　－教材づくり・教材研究－
10. 授業の創造④　－情報機器の活用および情報活用能力の育成－
11. 教育評価とはなにか①　－評価の種類と機能－
12. 教育評価とはなにか②　－新しい評価の方法と実践記録－
13. 教科外教育活動の構想①　－集団づくり・自治活動－
14. 教科外教育活動の構想②　－人権学習・道徳教育－
15. まとめ

【準備学習の内容】

予習のあり方：ニュースや新聞などの教育・子ども・学校に関する記事に関心を示し、幅広く情報を得ておくこと。児童館や子育て支援サークルなどの保育ボランティアなどたくさんの経験を積極的に積むこと。教育や子どものことなどについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本をなるべく多く読むこと。

学習のあり方：学習のあり方：教育者・保育者は子どもの育ちに責任があるということ、教育者・保育者である自分の言動が子どもに対し善悪交々の多大なる影響を与えること、を自覚すること。その上で、子ども自身が育っていくことに自分がどのように関わっていくことができるのかを想定しながら、授業やグループワークに参加してください。

復習のあり方：授業内容についての疑問点を整理し、ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解いてみること。疑問や質問は授業中でも授業後でも必ずその時に解決する習慣をつけましょう。
【成績評価】 課題提出などを含む授業への参加度合（20%）、試験（80%）をもとに総合的に評価する。すべて出席するのが原則です。遅刻・欠席は「参加度合」として不適切と判断します。健康管理や早めの行動を心がけてください。
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
【テキスト】 レジュメおよび資料を配布する。
【参考文献】 授業中に適宜指示する。